

より高く なく

より困難 でもない

岩稜 & ルート案内

広島県呉市
「天応烏帽子岩山」

文・写真＝松原尚之



まつばら・まさゆき
山岳ガイド。ヒマラヤに極地、ハイ
シエラのクライミングからマルチピ
ッチの開拓まで、幅広いジャンルで
長きにわたり活動を続ける。

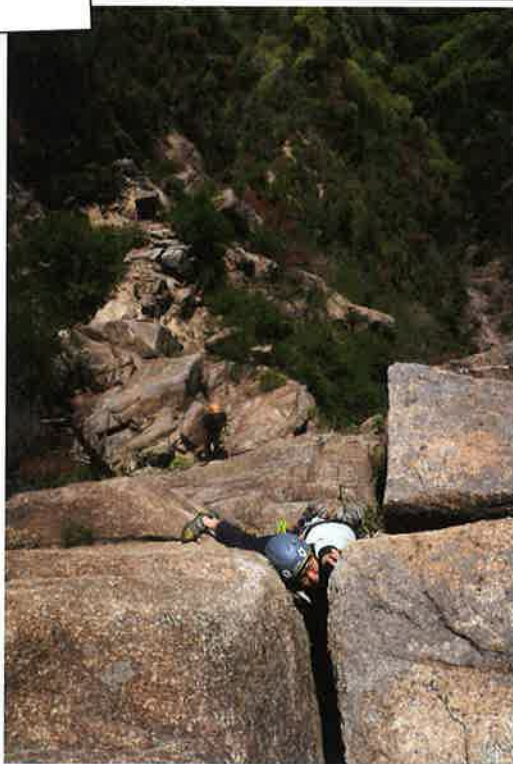
1

2

3

4

5



- 1 烏帽子岩に立つクライマー
- 2 最終ピッチ上部のプチワイドを登る
- 3 1ピッチ目は沢登りから
- 4 本谷3ピッチ目を登る大田由孝
- 5 なめら岩を登るクライマー

身近な宝石

広島県呉市はかつて「海軍のまち」として発展した。風光明媚で穏やかな呉湾は、海の要衝としてまたとない要件を備えていた。そんな呉の海を見下ろす天応烏帽子岩山、略して天応は、三倉岳や帝釈峠よりはるかに以前から登られてきた、広島県で最も古い歴史を有する岩場である。広島市街地から20分程度という近さに加え、電車でアクセスできたことも、この岩場がまだ山靴での岩登りが一般的であった時代から利用されてきた大きな理由である。ガイドブックなどに載っていない天応は全国的にはまったく知られていないが、広島のカイマーにとっては昔も今も、ポピュラーな岩場であることに変わりはない。

山名の由来となった烏帽子岩は麓からもよく目

立つ。その烏帽子岩に突き上げる顕著な岩尾根が銀座尾根で、左右の側壁には、ミッキーフェイス、第1、第2フェースといったショートルートのエリアも拓かれ、良質なルートを提供している。そして銀座尾根の右手には、なめら岩（黒なめら）と呼ばれる大きな一枚岩があり、天応のメインエリアとなっている。なめら岩は岩壁基部から見るとスケールがあり、60m超の高距がある。岩質は花崗岩だが適度な凹凸やクラックもあり、1~2ピッチのルートが16本ほど拓かれている。現在はデシマルグレードの付されたそれらのルートを、昭和の時代、日本登山界にその名をとどろかせた広島山の会の故・高見和成らは、登山靴を履き、手には二重に軍手をはめ、冬壁登攀の練習のために繰り返し登ったものだという。

2022年4月のうらかな週末のある日、天応な

めら岩の基部で日本山岳会広島支部ユースの「ザイル祭り」が実施された。ザイル祭りとは岩登りの安全祈願と登攀装備への感謝を込めて行なわれ、かつては日本のあちこちの山岳会で実施されていた行事である。ザイル祭りへの参加を終えた後、日本山岳会広島支部の大田由孝らに案内してもらい、銀座尾根に登りに行った。銀座尾根は花崗岩の岩塊の連なりだが、右手にからむように登山道がつけられている。その登山道をつかわず、岩尾根をダイレクトに攀じれば、初級者にはちょうど手頃なマルチ登攀が楽しめる。ここ数年、天応の岩場にもっとも足しげく通っているクライマーの一人である大田に言わせれば、「初めての人をここに連れてくれば、必ずクライミングにはまる」ということである。

銀座尾根へは登山道を登り、なめら岩の基部から取り付くこともできるが、そこまで上らず本谷を4ピッチほど登攀し、踏み跡をトラバースして取り付けば、より変化に富んだクライミングを楽しむことができる。「初めての人をここに連れてくれば……」という大田の言葉は、登ってみれば納得だった。登攀内容もさることながら、眺める景色が半端じゃないのである。多島美と形容される瀬戸内海の、個性적でありながら調和のとれた景観は、日本の数ある海景のなかでも比肩するものを探すが難しい。思うに広島の方々も、この景色のすばさに、天応という宝石の値打ちに、身近であるがゆえに気づかれていないのではあるまいか。もとよりクライミングにはまっている私だが、天応の岩場を知って、いっそう広島という土地に魅せられてしまった。

天応烏帽子岩山

作図: 両象輝正 & 松原尚之



GUIDE

天応烏帽子岩山「銀座尾根(本谷~銀座尾根)」[8P/5.5]

[1P] 20m/3rd 傾斜の緩い滝の左岸を登り、立ち木でピッチを切る。

[2P] 40m/4th 引き続き左岸沿いを登る。1~2ピッチ目とも滑りやすいので注意。

[3P] 15m/5.3 ハンガーボルト2本が打たれた水流左のきれいな壁を登る。

[4P] 45m/3rd 滑りやすい沢を注意して登り、沢がヤブでふさがれたような場所まで。

ここから右へ入る踏み跡がある。踏み跡をたどって銀座尾根に出たら、丸印の方へ一段上がってわずかに下がると、右下になめら岩取付が見える。

[5P] 28m/5.3 細い木をつかんで一段登り、緑色の大きなリングがある通称「展望台」でピッチを切る。さらに10mほど歩いて6P目取付へ。

[6P] 28m/5.4 チムニー状を登り、たくさんのリングボルトのある場所まで。

[7P] 25m/歩き ロープをつないだまま25mほど登る。

[8P] 25m/5.5 クラック沿いに登り、最後プチワイドっぽい核心を乗越すと終了点。

終了点からは登山道をたどり、約10分で烏帽子岩、さらに5分でドンガメ岩に着く。

DATA

アプローチ

墓地の下の駐車スペースから5~6分登った2つめの堰堤の脇から沢に入り、左岸沿いに少し歩けば本谷1P目の滝の下に出る。帰路になめら岩などを登るなら、一度なめら岩の基部まで登り、不要な荷物をデポするとよい。

下降

登山道を下降。展望のよいドンガメ岩まで登ってか

ら下りることを勧める。

参考タイム

登山口(10分) 本谷1P目滝下(1時間) 銀座尾根上 or なめら岩基部(1時間半) 7P目終了点(15分) ドンガメ岩(20分) なめら岩基部(15分) 登山口

参考ギア

ロープ50m、クイックドロ-6~7本、カム0.5~3番、スリング適

注…なめら岩を登る場合は60m以上のロープを持参のこと。クイックドロ-も多めに。

その他

銀座尾根は長いルートではないので、ショートルートも併せて登りたい。筆者はなめら岩の「第一ポピュラー」と「凹角~ハイウェイ」、ミッキーフェイスの「はやぶさ(5.10c)」を登ったが、いずれもおすすめできる。なめら岩の下降は懸垂。60mロープでギリギリなので末端は必ず結ぶこと。